



札幌市まちづくり 戦略ビジョン

戦略編

【概要版】

SAPPORO
2013-2022
平成25~34年度

札幌市

札幌市を取り巻く社会経済情勢は、人口減少や高齢化の急速な進行など、今後10年間で大きく変化することが見込まれており、市民の暮らしや地域経済などに様々な影響を与えることが予測されています。

こうした状況の中で、先人たちが築き上げてきたこのまちの魅力を更に高め、将来を担う子どもたちの輝かしい未来を創造していくためには、札幌が持つ強みを生かすとともに、時代の潮流を的確に捉えながら、経営資源の集中的な投下など、「選択と集中」により戦略的にまちづくりを進めていくことが重要となります。

このため、先に策定した「札幌市まちづくり戦略ビジョン<ビジョン編>」に掲げる目指すべき都市像「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」と、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」の実現に向けて、主に行政が優先的・集中的に取り組むことを示した<戦略編>を策定しました。

この<戦略編>には、超高齢社会の到来に伴う様々な地域課題を克服するための「暮らし・コミュニティ」、生産年齢人口の減少に伴う経済規模の縮小を克服するための「産業・活力」、そして、低炭素社会と脱原発依存社会を実現するための「低炭素社会・エネルギー転換」の3つの重点テーマを掲げています。

私たちがかつて経験したことのない社会経済情勢の変化の中で、最も大きなパラダイムの転換が必要となるこれらのテーマに沿った施策を重点的に展開していくためには、市民一人一人の創造性から湧き出るアイデアと行動力を結集し、一丸となって取り組むことが重要であり、このことにより、私たちは、今後待ち受ける様々な困難を柔軟に乗り越え、「新たな創成期」を切り開いていけるものと確信しています。

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」は、市民と共有し、共に進めていく「市民計画」です。このビジョンに基づき、市民の皆様と「札幌らしい将来のまちの姿」を思い描き、共に築き上げていくことによって、世界に誇る魅力的な札幌のまちを将来に引き継いでいきたいと考えております。

平成25年（2013年）10月

札幌市長 **上田 文雄**



目次

はじめに	1	創造戦略 6 産業人材創造戦略	14
1 戦略編の策定趣旨	1	第3節 低炭素社会・エネルギー転換	16
(1) 将来の見通しと課題	1	創造戦略 7 低炭素都市創造戦略	16
(2) 都市経営戦略の必要性	1	創造戦略 8 次世代型エネルギー創造戦略	18
2 戦略編の展開に当たって	1		
第1章 創造戦略	2	第2章 戦略を支える都市空間	20
第1節 暮らし・コミュニティ	4	1 都市空間創造の基本目標	20
創造戦略 1 地域福祉力創造戦略	4	2 目指す都市空間と都市空間創造戦略	21
創造戦略 2 共生社会創造戦略	6		
創造戦略 3 地域マネジメント創造戦略	8	第3章 戦略の展開に当たって踏まえるべき	26
第2節 産業・活力	10	行財政運営の視点	
創造戦略 4 札幌型産業創造戦略	10		
創造戦略 5 都市ブランド創造戦略	12	成果指標一覧	27

まちづくり戦略ビジョンの全体像

ビジョン編

第1章 はじめに

第2章 社会経済情勢の変化と札幌

第3章 私たちが目指す札幌市の将来

目指すべき都市像

北海道の未来を
創造し、世界が憧れるまち

互いに手を携え、
心豊かにつながる共生のまち

第4章 まちづくりの基本目標

地域

経済

子ども・若者

安全・安心

環境

文化

都市空間

第5章 ビジョンの推進に当たって

基本理念

札幌の未来をつなぐ
子どもたちのために

基本姿勢

- ◆市民が主役のまちづくり
- ◆まちの活力を高める人づくり
- ◆北海道と共に発展する札幌
- ◆限りある資源の有効活用と共創

戦略ビジョンの効果的推進

今後10年間で最も大きなパラダイムの転換が必要となるテーマを選択し、集中的に施策を展開

戦略編

第1章 創造戦略

暮らし コミュニティ

- 1 地域福祉力創造戦略
- 2 共生社会創造戦略
- 3 地域マネジメント創造戦略

産業 活力

- 4 札幌型産業創造戦略
- 5 都市ブランド創造戦略
- 6 産業人材創造戦略

低炭素社会 エネルギー転換

- 7 低炭素都市創造戦略
- 8 次世代型エネルギー創造戦略

第2章 戦略を支える都市空間

都市空間創造の基本目標

持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築を進める

都市空間創造戦略

- 1 魅力ある市街地
- 2 活力があふれ世界を引きつける都心
- 3 多様な交流を支える交流拠点
- 4 持続可能な都市を支えるネットワーク
- 5 都市基盤の維持・保全と防災力の強化

第3章 戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点

- ◆市民自治の更なる深化
- ◆変化に対応できる組織
- ◆持続可能な財政運営
- ◆サービス水準や受益と負担の在り方
- ◆市有財産の保全と活用
- ◆市民・企業などとの連携の強化
- ◆北海道と道内市町村との連携体制の確立

はじめに

1 戦略編の策定趣旨

人口減少や少子高齢化の急速な進行に伴う様々な社会課題や地域課題が想定される中、このまちの輝きを次世代に引き継いでいく必要があることから、こうした課題に果敢に挑戦していくための羅針盤とも言べき、札幌市の新たな都市経営戦略として、この札幌市まちづくり戦略ビジョン〈戦略編〉を定めるものです。

(1) 将来の見通しと課題

ビジョン編では、「社会経済情勢の変化と札幌」に示す課題に対し、第5章「ビジョンの推進に当たって」において、7つのまちづくりの分野を横断的な視点で整理し、「選択と集中」の観点から、今後、戦略を持って取り組むべき3つのテーマを導き出しており、これらに沿った施策を重点的に展開していく必要があります。

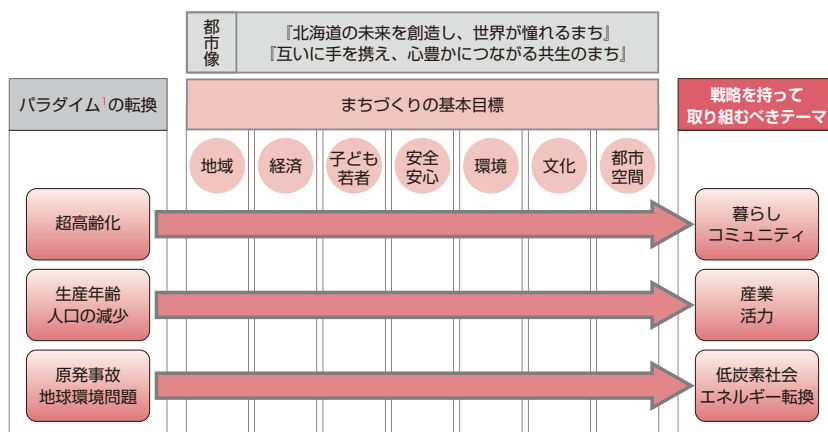
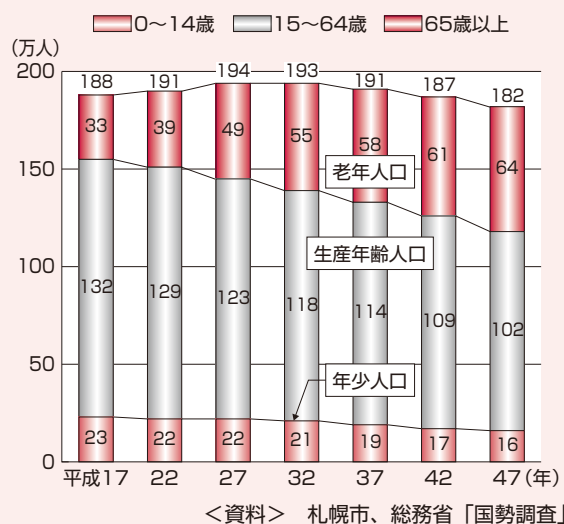
一方、今後の財政状況は、生産年齢人口の減少などの影響により市税等の伸び悩みが懸念される一方で、社会保障関係費などの増加が見込まれ、札幌市の財政状況の先行きは厳しい局面にあると言えます。

(2) 都市経営戦略の必要性

先人たちが築き上げてきたまちの魅力を更に高め、将来を担う子どもたちの輝かしい未来を創造するためには、札幌の強みや弱みを分析した上で、戦略を持って取り組むべきテーマへの経営資源の集中配分を行うための指針と、その展開を支えるための新しい時代に対応する行財政運営の視点が必要となっています。

そこで、このまちの魅力を高めていくためのまちづくりの指針として、「創造戦略」、「都市空間」、「行財政運営の視点」を示し、これを札幌市の都市経営戦略とします。

図1 札幌市の人口の将来見通し



2 戦略編の展開に当たって

展開に当たっては、市民や企業などの多様な活動主体と協力しながら取り組んでいきます。また、この戦略の方向性に沿った中期実施計画などを策定していくとともに、各分野における個別計画の策定や見直しを行い、具体的な取組を進めていくことで、戦略の着実な推進を図ります。

また、目標とする成果指標やロードマップを設定するなど、実現性を確保するための目安を設け、明確な進捗管理を行うとともに、適宜、中間点検や評価を実施し、時代の変化に対応していきます。

¹【パラダイム】ここでは、ある時代や分野において支配的規範となる「物の見方や捉え方」のことをいう。

第1章 創造戦略

札幌は今、大きな転換期を迎えようとしています。

かつて経験したことのない社会経済情勢の変化の中で、新たな創成期を切り開いていくためには、市民一人一人の創造性から湧き出るアイデアと行動力により、様々な課題に立ち向かっていくとともに、先人たちが培ってきた札幌の持つ多彩な魅力を磨き上げ、新たな価値を創造し、次の世代に継承していかなければなりません。

また、創造性に富む市民と、外部との交流によって生み出された知恵が産業や文化を育み、新しいコト、モノ、情報を絶えず発信していくまち、すなわち、「創造都市さっぽろ」を目指して、全力で取り組んでいく必要があります。

そこで、この章では、ビジョン編第5章に示す3つのテーマごとに、社会経済情勢の変化や札幌ならではの強みと弱みを踏まえた戦略設定のための分析（SWOT分析²）を行った上で、時代の変化に的確に対応しながら目指すべき都市像を実現するための8つの創造戦略を設定します。

今後、これらの創造戦略に経営資源を集中的に配分することで、将来を担う子どもたちのための輝かしい未来を創造していきます。



² [SWOT分析] 1960年代に考案された、もともとは企業経営を展望するための組織のビジョンや戦略を企画立案する際に利用する現状分析手法の一つ。SWOTは、Strengths（強み）、Weaknesses（弱み）、Opportunities（機会）、Threats（脅威）の頭文字を取ったもの。

第1節 暮らし・コミュニティ

人口減少や少子高齢化の進行に伴う高齢単身世帯³の増加や、貧困等の様々な要因による社会的孤立⁴の顕在化などに対応するため、地域⁵でのつながりや支え合いによる共助⁶の意識の醸成と、これらを補完する地域社会の仕組みづくりに取り組む必要があります。また、少子化を背景とした、子どもを社会全体で育てる意識の高まりや、ノーマライゼーション⁷の理念の浸透を踏まえ、子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、誰もが社会に参加できる環境づくりが重要となります。さらには、複雑・多様化する地域課題の解決に向けて、まちづくり活動の担い手の育成や活動主体同士の連携などによる地域資源の活用を通じて、地域マネジメントを推進していく必要があります。

第2節 産業・活力

地域消費型⁸の経済構造となっている札幌・北海道は、今後想定される人口減少により、経済規模の縮小や、市民所得の減少による経済的困難を抱える層の拡大など、深刻な影響を受ける懸念があります。これを克服していくためには、北海道経済全体の活性化を見据え、魅力と強みを生かして、新たな価値の創造による産業の高度化を図るとともに、道内循環を高め、道外需要を取り込むことで、足腰の強い経済基盤を確立することが重要な課題となります。また、経済を支える人材を育て、札幌・北海道の経済のために活躍してもらうことも必要です。

第3節 低炭素社会・エネルギー転換

地球規模での温暖化の進行や東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、今後、低炭素社会と脱原発依存社会⁹を実現し、先人たちが築いてきた財産を未来に引き継いでいくためには、環境負荷の少ない低炭素型の都市構造を形成していくことが大切です。また、新たな技術などを取り入れたエネルギー政策をまちづくりの中心に位置付け、エネルギー転換や効率的なエネルギー利用を進めていくことが、エネルギーの大消費地である札幌にとってますます重要になります。

³ 【高齢単身世帯】 65歳以上の一人一人のみの世帯。

⁴ 【社会的孤立】 社会の中で居場所、社会的な安定性を持たない社会的集団又は個人を指す。

⁵ 【地域】 この場合の「地域」とは、行政区より小さい、生活に身近な空間的広がりを指す。

⁶ 【共助】 地域における多様な生活ニーズへの的確な対応を図るため、自立した個人が主体的に関わり、支え合うこと。

⁷ 【ノーマライゼーション】 高齢者や障がいのある方などを施設に隔離せず、健常者と一緒助け合いながら暮らししていくのが正常な社会の在り方であるとする考え方。また、それに基づく社会福祉政策。

⁸ 【地域消費型】 ここでは、ある圏域において生産されるものや提供されるサービスを圏域内で消費する行動形態をいう。

⁹ 【脱原発依存社会】 ここでは、再生可能エネルギーの普及促進や省エネルギーの取組の推進などにより、原子力発電がなくても暮らし続けられるようになった社会をいう。

第1節 暮らし・コミュニティ

創造戦略 1 地域福祉力創造戦略 ～市民が孤立することのない地域づくり～

10年後の目指すべき姿

地域の支え合いによって、高齢単身世帯や障がいのある方、要介護者などの社会的に孤立しがちな市民を始め、支援を必要とする市民が支援を受けられる環境が整うとともに、行政機関などによる地域に密着した保健福祉サービスが充実しています。また、災害発生時に支援を必要とする要援護者への支援体制も充実しており、誰もが安心して暮らしています。

パラダイムシフト

実現するために変わります！

支援を必要とする市民へのアプローチ強化

- ◆保健師等による訪問相談などの充実
- ◆まちづくりセンターによる地域支援機能の強化



主な取組

1-① 市民の孤立を防ぐ支え合いの環境づくり

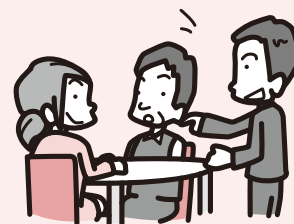
地域福祉活動に対する支援を充実します。

- 先駆的な取組の紹介やマニュアル作成などを通じた支援の充実により、地区福祉のまち推進センター¹⁰の活性化を図ります。
- 民生委員・児童委員への研修の充実などを通じて支援体制を強化します。
- 見守りが必要な要支援者の情報に関する取扱いのルールを確立させ、地域の活動主体間における共有化を推進します。



重層的な見守り体制を構築します。

- 区役所、まちづくりセンター¹¹等による一体的な支援・調整機能の強化を通じて、地域福祉のネットワーク化を推進します。
- 宅配事業者等との見守り連携協定の締結の推進など、企業やNPOとの連携体制の充実を図ります。



¹⁰ 【地区福祉のまち推進センター】市民の自主的な福祉活動を行う組織。

¹¹ 【まちづくりセンター】住民組織の振興、地区の要望などの収集、市政の周知などに加え、様々なまちづくり活動を支援する地域の拠点として市内に87箇所設置（平成25年4月1日現在）。

1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり

支援を必要とする市民を適切に把握する体制を構築します。

- 保健・福祉・医療を担当する職員等による地域活動や訪問相談の実施など、個別支援を強化します。
- 区役所における組織体制について、現行の業務担当別から地区担当別への移行を推進します。
- 地域福祉のネットワークと専門機関との連携を強化します。
- 区役所から必要な情報提供を行い、まちづくりセンターの地域福祉活動への支援機能の強化を図ります。



地域で必要な保健福祉サービスが受けられる環境づくりを推進します。

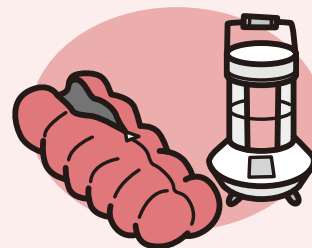
- 身近な地域における地域包括支援センター¹²などの相談・支援機関を拡充します。
- 区役所における窓口間の連携強化による総合相談機能を強化します。
- 地域の医療・介護の関係機関が参加する会議や勉強会などを通じて病診連携や医療と介護のネットワークを強化します。
- 地域生活や在宅介護などを支える適切なサービス量を確保するとともに、サービス提供体制の充実に努めます。



1-3 災害に備えた地域防災体制づくり

避難場所の環境整備を推進します。

- 避難場所における防寒対策の充実に図るとともに、学校施設の窓ガラスや照明器具などの耐震化やバリアフリー化を推進します。
- 食糧や毛布、寝袋、移動式灯油ストーブ等の備蓄物資を拡充するとともに、全ての小中学校などへの分散配置を進めます。
- 被害集中地区への物資配送拠点となる防災備蓄倉庫（拠点倉庫）を整備するとともに、輸送体制を確保します。



実践的な地域防災体制づくりを進めます。

- 地域の自主防災組織や学校、区役所等が参加する研修などの充実に図ります。
- 災害時に主体的な行動ができるよう、成長段階に応じた災害活動支援教育の充実に図るなど、防火・防災教育を推進します。
- 高齢者や障がいのある方など災害時に支援が必要な市民への避難支援体制の充実や、避難場所で配慮を要する市民の生活環境の充実に図ります。



¹²【地域包括支援センター】介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上などを総合的に行う機関。

10年後の目指すべき姿

性別や年齢、障がいの有無などに関わらず、全ての市民が持てる能力を社会の中で発揮し、経済的にも自立しながら生きがいをもって生き生きと暮らしています。また、子どもや若者を社会全体で育てていく意識が高まっています。さらに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる環境が整っています。

パラダイム
シフト

実現するために変わります！

誰もが生涯現役で活躍できる環境整備

- ◆ボランティアポイント制度の拡充
- ◆生涯学習とまちづくり活動をつなぐ仕組みづくり



||||||| 主な取組 |||

2-① 地域で共生する環境づくり

共生・協働できる地域づくりを推進します。

- 学校や児童会館、福祉施設など多様な社会資源を活用した多世代交流の場の創設や多様な活動主体による交流の場の拡充を図ります。
- 障がいのある方もない方も共に働く場の拡充や、障がいのある方を雇用する企業の開拓など就労支援の充実を図ります。
- 長期間未就労者の就労体験的なボランティア活動の場を拡充し、中間的就労¹³など本人の段階に応じた自立のための支援を検討します。
- ひとり親家庭に対する就業に向けた資格取得への支援や相談体制などの充実を図ります。



生涯現役で生きがいをもって暮らせる環境づくりを進めます。

- 退職世代を対象としたセミナーや、生涯学習と地域のまちづくり活動とのマッチングなどにより、まちづくり活動への参加を促進します。
- ボランティアの研修から登録、活動のコーディネートまでを一体的に支援する体制の充実や、活動に応じて様々な特典と交換ができるポイント制度を拡充します。



¹³ 【中間的就労】 一般的な就労が困難な人に対して、社会的な自立に向けたサポートをする仕組みを組み込んだ就労形態。

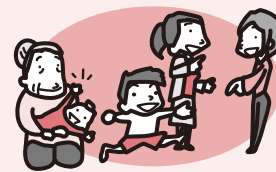
¹⁴ 【区保育・子育て支援センター（ちあふる）】 保育サービスに加えて、様々な子育て支援に関するサービスを提供する施設。

¹⁵ 【地域型保育】 少人数の乳幼児を預かる保育施設などの身近な地域での保育機能。

2-② 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり

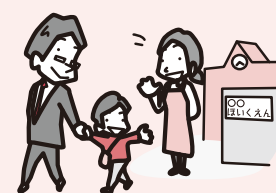
子育てしやすい環境づくりを進めます。

- 区保育・子育て支援センター（ちあふる）¹⁴の全区設置等を通じた子育て家庭への個別支援を強化するとともに、子育てサロンの充実を図ります。
- 児童相談所などの相談・支援機能を強化するとともに、里親の育成を始めとした社会的養護体制の充実を図ります。
- 小規模保育などの地域型保育¹⁵や休日保育を推進するとともに、延長保育や一時預かりなどを拡充し、保育サービスの充実を図ります。
- 小学校と児童会館の併設化などにより、放課後児童クラブの利便性を向上させます。



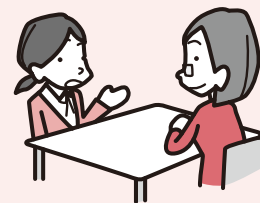
子ども・若者の多様な学びやまちづくり活動への参加機会を拡充します。

- 地域の人材による学校支援などを通じて学校と地域が一体となって子どもの学びを支える仕組みづくりを推進します。
- 子どもがまちづくり活動に主体的に関わる機会の創出・拡大や、住民との交流を通じた学びの場として、児童会館の更なる活用を推進します。
- 大学との連携協定の拡充などにより、将来のまちづくりの担い手となる学生や若者のまちづくり活動への参加を促進します。



社会的自立が困難な若者への支援体制を充実します。

- 若者支援総合センターを核として、ニートや引きこもりなどに対する自立支援プログラムの充実や相談・支援体制を強化するとともに、地域の企業や団体とのネットワーク構築を進め、就労支援の充実を図ります。



2-③ 歩いて暮らせるまちづくり

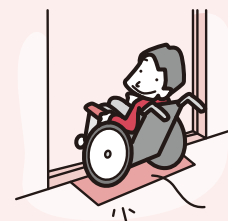
生活利便機能の維持・向上を推進します。

- 地下鉄駅周辺などに再開発等を通じて商業や医療などの都市機能や交流機能の集積を図るとともに、公共施設の集約化を推進します。
- 土地利用計画制度¹⁶の適正な運用や、高齢者などが買い物しやすい環境づくりに取り組む商店街への支援を行います。
- 利便性の高い地域へのサービス付き高齢者向け住宅などの居住機能の集積を促進します。
- 学校、まちづくりセンター、児童会館など目的別に設置されている公共施設の併設化や機能統合等の検討を進めます。



地下鉄駅周辺施設などの利便性を向上します。

- 再開発等を活用した空中歩廊の整備や地下接続などを進めます。
- 地下鉄駅周辺などの重点整備地区におけるバリアフリー化を推進します。



¹⁶ 【土地利用計画制度】 土地の利用に関するルールを定め、個別の建築行為などを規制・誘導することによってまちづくりの目標の実現を図るもの。

10年後の目指すべき姿

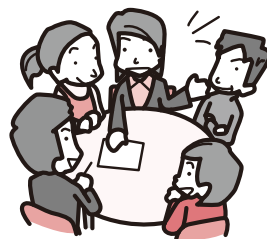
地域活動の担い手となる人材が育成されているとともに、活動主体同士による連携も深まり、様々な地域資源が創出・活用されています。また、多様化する地域課題の解決に取り組む住民の主体的な活動が活発化するとともに、行政による支援も充実し、課題に的確に対応した地域マネジメント¹⁷が推進されています。さらに、市民・企業・行政の協働による地域特性に合わせた除排雪などにより、雪と共存した札幌らしい冬の暮らしが実現しています。

パラダイム
シフト

実現するために変わります！

地域の特性や課題に即した組織体制の構築

- ◆共助と公助の接点となる身近な行政機能の充実
- ◆様々な活動主体間のネットワークの構築



||||||| 主な取組 |||

3-① 地域活動を活発化する環境づくり

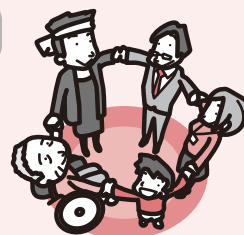
まちづくり活動の担い手となる人材を発掘・育成します。

- 各種情報媒体による、町内会の役割への理解を進める情報発信の強化や、不動産関連団体等との連携を通じた加入促進などを進めます。
- 学校、PTA、町内会などの連携により子どもの地域活動への参加を促進します。
- 退職世代を対象としたセミナーや、生涯学習と地域のまちづくり活動とのマッチングなど、高齢世代等のまちづくり活動への参加を促進します。
- 市民活動サポートセンター等による NPO やボランティア団体などへの活動場所の提供や運営に対する支援の充実を図ります。



活動主体同士の連携や市民の居場所・活動拠点づくりを推進します。

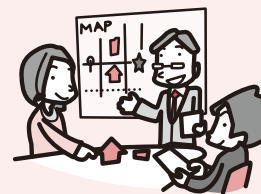
- 様々な活動主体が交流し相互に連携できる場として学校施設などを有効に活用します。
- 企業の社会貢献活動（CSR¹⁸）の立ち上げ支援や、多様な活動主体と連携して地域の課題解決に取り組む NPO への支援を行います。
- 地域活動や文化芸術活動の場として、空き家や空き店舗などの活用を支援します。



3-2 地域マネジメントの推進

まちづくりセンターなどによる支援・調整機能を強化します。

- まちづくり協議会¹⁹等への参加団体を多様化するなど参加促進に取り組み、地域内における様々な活動主体間のネットワークの充実を図ります。
- まちづくりセンター等による活動主体への行政情報や統計データの提供、関係部局とのコーディネートなどの支援の充実を図ります。



地域マネジメントを推進します。

- 地域に対する効果的な支援の在り方を検討し、区民協議会²⁰やまちづくり協議会などの活性化を図ります。
- 地域カルテ²¹や地域マップなどの活用を進めるとともに、地域ごとの将来を展望した「地域まちづくりビジョン」の策定を支援します。
- 地域の将来像を共有し、商店街の新たな役割や可能性の発見と協調的な取組を生み出す場の構築を促進します。
- 地域への組織横断的な支援の在り方や、区役所と本庁の機能・役割分担の在り方などの検討を進め、効果的な行政組織体制を構築します。



3-3 雪と共存した暮らしの推進

地域特性に合わせた除排雪を推進します。

- 地域との懇談会や小中学校での出前授業などを通じて、幅広い世代への除排雪に対する理解を促進します。
- 利用可能な公共用地を地域の雪置き場として活用し、地域内雪処理を推進します。
- 福祉除雪の地域協力員の確保や企業・団体などによる協力を促進するとともに、冬のボランティア活動への若い世代の参加を促進します。
- 高齢化や人口減少を踏まえた除雪の在り方について、市民、有識者などによる議論を進めます。
- 冬季道路環境の向上に向けて、バスやタクシーの事業者との間で情報共有や連携体制を構築します。
- 多くの市民が通行する公共施設周辺の歩行環境の改善を図るとともに、通学路の除排雪を強化します。



雪と共存した冬の豊かな暮らしを実現します。

- スキー指導者等の地域の人材を発掘し、身近な冬のイベントや学校などに派遣する取組を推進します。
- 市民自身が雪に親しみ、冬の暮らしを楽しむライフスタイルを推進するとともに、雪まつりなど既存の冬のイベントの開催の在り方を再構築し、魅力の向上を図ります。



¹⁷ 【地域マネジメント】 地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるため、経営的な発想を持って市民・企業など地域の様々な活動主体の連携の下で行う主体的な取組。

¹⁸ 【CSR】 企業の社会的責任。法令順守や社会貢献など、一般に企業が社会に対して果たすべき責任。

¹⁹ 【まちづくり協議会】 地域の様々な団体などが課題解決や目標を実現するためのネットワーク組織。

²⁰ 【区民協議会】 区内の様々な団体等の代表者などで構成した、区民意見の調整や合意形成を行うための組織。

²¹ 【地域カルテ】 統計データなどを再整理し、地域のまちづくり活動団体が更に活性化するために札幌市が作成した資料。

第2節 産業・活力

創造戦略 4

札幌型産業創造戦略 ～新たな価値の創造による産業の高度化～

10年後の目指すべき姿

札幌が持つ魅力的な地域資源を生かした食や観光分野において、新たな価値が生まれ出され、幅広い産業分野の競争力が高まっています。また、低炭素社会の実現や超高齢社会の到来によって生じる様々な需要や課題への対応などを通じて新たな価値を創造する環境、健康・福祉分野の産業が根付き、新しいビジネスが生まれています。

パラダイム シフト

実現するために変わります！

北海道の魅力資源を生かした産業力強化

- ◆食の新たな価値創造、食関連企業の集積
- ◆札幌・北海道の強みを生かした MICE²² 誘致の強化



||||||| 主な取組 |||

4-① 食の魅力を生かした産業の高度化

食関連産業の基盤を強化し、産業間の連携を促進します。

- 食の「安全・安心」の確保に向けた取組を一層推進するとともに、試験・試作支援機能や事業提案機能などの充実を図ります。
- 産・学・官のコーディネート機能を構築し、お互いの技術や強みを生かした食関連産業同士の連携や他産業との連携を促進します。

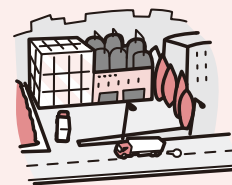
新たな価値の創造から道外販路の確保までを支援します。

- 医薬、機能性食品の研究開発や、鮮度保持技術の実用化などを支援します。
- 国際貨物輸送の強化や食の販売と情報発信を行う拠点の形成、プロモーションの強化などにより、アジアを始めとした海外展開を支援します。



道内外からの食関連企業の誘致、集積を促進します。

- 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の税制優遇などを活用しながら、食関連技術のうち、ボトリング（瓶詰め）などの道内において十分に対応ができていない部分を補完する企業の誘致を重点的に進めます。
- 北海道の強みを生かせる食・バイオ分野等の企業集積に向けて、近隣自治体と連携した誘致活動などを行います。



²² [MICE] 多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

²³ [スマートファクトリー] 工場内の機器をネットワークで結ぶことなどにより、エネルギーの効率的利用を可能にした工場のこと。

4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進

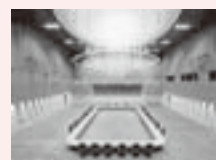
札幌らしい新たな都市観光を創造します。

- 自然、食、文化芸術、スポーツなどの札幌らしい魅力資源を様々な世代の視点を生かしながら、発掘・創出・活用し、市民にも来訪者にも魅力的なまちづくりを進めます。
- 市民力を活用した情報発信の促進や、国・地域のニーズを捉えた効果的なプロモーション活動を展開します。



観光消費の拡大、付加価値の向上を図ります。

- 道内市町村と連携して、周遊・滞在に結び付く魅力の創出・充実を図るとともに、無線通信環境の充実や多言語対応の促進など、外国人観光客の受入環境の向上を図ります。
- 富裕層向けの質の高いサービスなど観光関連サービスの質的転換や、インバウンドや MICE の誘致強化と推進体制の充実を図ります。



4-③ エネルギー転換に対応した環境産業の創造

エネルギー関連技術の産業化を推進します。

- 産・学・官連携により、積雪寒冷技術などの研究開発や実用化を支援します。
- 太陽光などの再生可能エネルギー創出関連技術や、それらのエネルギーを蓄える技術開発や事業化に取り組む企業を支援します。
- 民生部門のエネルギーマネジメントや産業部門のスマートファクトリー²³化に関連するシステムや機器などの導入を促進します。



エネルギー関連技術の集積や企業誘致を図ります。

- 大規模な再生可能エネルギーシステムの設置を支援するとともに、発電効率の検証や蓄電池を組み合わせたシステム等に関する実証実験を支援します。
- 道内市町村と連携して、再生可能エネルギー・スマートグリッドなどの技術に関する研究開発や製造を行う企業の誘致を推進します。



4-④ 超高齢社会に対応した健康・福祉産業の創造

健康・福祉関連の産業振興や機能性食品などの研究開発を促進します。

- 介護・看護などに関するものづくりの技術研究や商品化を支援します。
- 医療と食・農業を IT 技術によって連携させる新たな産業を育成します。
- 北海道大学北キャンパス等において行われている医療・医薬や機能性食品などのバイオ関連企業の研究開発を支援します。



先端医療技術を活用して、新たな価値を創造します。

- 医療関連の素材・機器などの研究開発型企業を支援するとともに、臨床や学術研究と産業をコーディネートする機能の構築を推進します。



10年後の目指すべき姿

創造性を生かした産業活動の推進や、国際戦略・シティプロモートの積極的な展開により、道内循環が高まるとともに、道外需要を積極的に取り込んでいます。また、こうした取組に併せて、札幌を含めた道央圏、さらには北海道全体の連携による都市競争力を強化するための基盤づくりが進んでいます。

パラダイム
シフト

実現するために変わります！

国内外の活力を取り込む環境整備

- ◆海外需要を取り込むための国際戦略の推進
- ◆広域的な交通ネットワークの充実



||||||| 主な取組 |||

5-① 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開

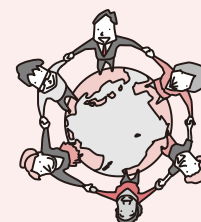
アジアや北方圏に対するマーケティング活動や MICE 誘致の強化を進めます。

- 札幌市や地元金融機関等の海外拠点を活用した企業マッチング等を実施します。
- 環境保全や教育、保健衛生など、幅広い分野における海外研修生の受入れや開発途上国への技術者派遣などを通じた国際協力を促進します。
- インバウンドや MICE の誘致強化と推進体制の充実を図ります。
- 今後の国際戦略の方向性を示す「国際戦略プラン」を策定するとともに、「官民連携国際実務者会議」の設置や、組織横断的な連携による海外シティプロモートを展開するなど、国際情勢の変化に柔軟に対応する取組を進めます。



企業や市民の国際化を促進する仕組みづくりを進めます。

- 若い頃からの海外経験を促すとともに、セミナーなどを通じて多様な文化に触れる機会を提供します。
- 外国人留学生の誘致や道内への就業促進に向けた支援のほか、海外経験のある日本人学生と企業の就職マッチングを進めるなど、グローバル人材の就業を支援します。
- 在住外国人のニーズを踏まえた生活・医療・教育支援を強化するなど、外国人が活躍しやすい生活環境の整備を進めます。



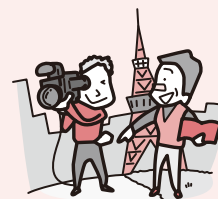
²⁴ 【コワーキング】各個人が独立して働きつつも、働く場所を共有することで、新たなビジネスを生み出していく仕事の仕方。

²⁵ 【ICC】 インタークロス・クリエイティブ・センターの略。クリエイターや企業などの新たなビジネスの創出を支援する施設。

5-2 創造性を生かしたイノベーションの誘発

創造的なものづくりにチャレンジする起業家を育成します。

- コワーキング²⁴等の新たな働き方への支援や、インキュベーション機能の強化を図ります。
- ICC²⁵や札幌市立大学などの創造性を有する組織・人材による産業化の取組などを推進し、クリエイティブ産業の創発や人材育成を進めます。



創造的な活動と地場産業の交流を促進します。

- 映像のプロモーション効果を活用して、観光客やMICEの誘致、地場商品の販路拡大などを推進します。
- 札幌国際芸術祭等を活用しながら、芸術家とものづくり企業などの多様な企業との交流や連携を促進します。



5-3 広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実

道内外とのヒト・モノ・情報の流れを活性化します。

- 6次産業化²⁶や滞在型観光等、あらゆる産業分野における道内連携を促進します。
- 北海道新幹線の早期開業に向けた取組を推進するとともに、骨格道路網の整備、海外航空路線の拡充促進や、丘珠空港、新千歳空港、石狩湾新港の利用促進を図ります。



道都・札幌の都心の魅力づくりに取り組みます。

- 道内とのアクセス拠点ともなる札幌駅交流拠点の基本的な整備方針の策定や、北5西1地区の整備検討や地下鉄さっぽろ駅などの再整備を行います。



企業集積を促す環境づくりを進めます。

- 政府機関の災害時のバックアップ拠点機能や民間企業の業務継続のための本社機能などの移転受入れを推進するとともに、東雁来流通工業系業務地区の整備促進や新たな誘致適地の在り方を検討します。

5-4 シティプロモート戦略の積極展開

都市の魅力を高めるため、シティプロモートを推進します。

- シティプロモートのシンボルマークである“SAPPORO（サッポロスマイル）”等も活用し、札幌ならではのライフスタイルの魅力を効果的に世界に発信します。



札幌の魅力を感じ、発信する人を更に増やします。

- 雪まつりなど既存の冬のイベントの魅力向上や、2017年アジア冬季競技大会の開催、国際的な知名度を高める冬季スポーツ国際大会の誘致を推進します。
- ユネスコ創造都市ネットワークのメディアアーツ²⁷分野への加盟や札幌国際芸術祭の定期開催などを通じて、海外との交流・連携やクリエイティブ人材の誘致を進めます。



²⁶ 【6次産業化】 第1次産業、第2次産業、第3次産業を融合させ、新たな産業振興を行うという考え方。

²⁷ 【メディアアーツ】 デジタル技術などを用いた新しい芸術表現で、創造的な産業にも波及する概念。

10年後の目指すべき姿

札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材が育ち、誰もが活躍できる環境が整っています。さらに、女性や高齢者を始めとした市民一人一人が力を発揮し、多様化する社会的課題の解決や持続可能な経済の成長が実現されています。

パラダイム
シフト

実現するために変わります！

女性が活躍できる環境整備

- ◆女性の力を生かした起業や就職の支援
- ◆多様な保育サービスや放課後児童クラブの
利便性向上

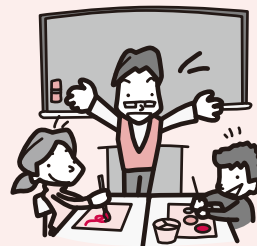


||||||| 主な取組 |||||

6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

子どもたちの経験を豊かにする環境をつくります。

- 札幌の自然や歴史等を学び、文化芸術に親しむ機会や、食育、科学的リテラシー²⁸、勤労観や職業観を育む学習機会など、様々な教育プログラムの充実を図ります。
- 国際理解教育の推進や、若い頃からの海外経験を促すほか、海外との交流を促進します。



札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材を育成します。

- 市内の大学などによる高度専門職業人の創出を推進するとともに、就業能力の開発に関するセミナー等の充実を図ります。
- (仮称)アートセンターにおいて、必要な理論を学ぶ講座を実施するとともに、現場を体験する実習を行うなど、アートマネジメント²⁹人材の創出を進めます。



²⁸ 【リテラシー】何かの分野や物事に習熟してそれを使いこなすことができる能力。

²⁹ 【アートマネジメント】ここでは、アート資産（施設、イベント、アーティスト・市民）それぞれの質を高め、相互の連携をコーディネートすることをいう。

優れた人材の知識や経験などを生かします。

- 大学などによる留学生誘致活動への支援や、留学生誘致に向けたPRを実施します。
- 国内外から芸術家を招き、市民が身近に芸術に触れ合う機会を提供します。
また、二地域居住³⁰の推進等により、創造的活動に携わる人材を誘致するなど、道外の優れた人材が、札幌で活躍する機会を提供します。
- 優れた人材と企業のマッチング支援の強化や、留学生などのグローバル人材に対する就職セミナーや就業マッチングを推進します。



6-2 誰もが活躍できる社会の実現

女性が活躍しやすい環境をつくります。

- 女性の潜在的な力を生かした起業や就職への支援や、公開講座などによる離職後のキャリアアップの機会提供を通じた女性の再就職支援を行います。
- 認可保育所の整備を進めるとともに、事業所内保育などの地域型保育や休日保育を推進します。また、延長保育や一時預かりなどの地域子ども・子育て支援事業を拡充するほか、認定こども園への移行支援を行います。
- 放課後児童クラブの充実を図るほか、学校と児童会館の併設化の検討を進めます。
- 市民や市内企業へのワーク・ライフ・バランスの普及啓発を行うとともに、取組企業へのアドバイザー派遣などの支援を行います。



社会的課題を解決するための活動を促進します。

- ソーシャルビジネス³¹などの立ち上げに当たって、経営相談・融資に加え、助言者となる先輩起業家との出会いや起業家同士の交流の場を提供するなど、その立ち上げを支援します。
- 豊富な知識や経験を持つ高齢者が、企業やソーシャルビジネス等の場で活躍する支援を進めるとともに、遊休農地等を活用して行う自給的農業や就農など（定年起農）を支援します。



³⁰ 【二地域居住】ここでは首都圏と札幌市の2つの地域に生活拠点を持つことを指す。

³¹ 【ソーシャルビジネス】環境、医療、福祉など地域の様々な社会的課題を、ビジネスの手法を用いて解決しようとする事業。

第3節 低炭素社会・エネルギー転換

創造戦略 7 低炭素都市創造戦略 ～環境負荷の少ない都市の形成～

10年後の目指すべき姿

地下鉄駅などの交通結節点³²を核に都市機能が集約しており、買い物や通院など日常生活に利用する公共交通の利便性も確保されることで、自家用車等での移動による温室効果ガスの排出量が抑制される、環境に優しい交通体系が確立した持続可能な集約型の都市が構築されています。さらに、豊かな自然と調和することで、都市を取り囲む自然の恩恵も享受できるみどり豊かで環境負荷の少ない都市が形成されています。

パラダイム
シフト

実現するために変わります！

環境に優しいコンパクトな都市の構築

- ◆環境負荷の少ない都心のまちづくりの推進
- ◆地下鉄駅周辺などへの生活関連機能の導入支援



主な取組

7-① 持続可能な集約型の都市への再構築

低炭素都市への再構築を進めます。

- 札幌市都市計画マスタープラン³³を見直すとともに、低炭素まちづくり計画の策定に向けた検討を進めます。
- 集約型の都市への再構築に向け、都市再開発方針を見直します。

都心や地下鉄駅周辺などに都市機能の集積を促進します。

- 都心まちづくり計画の見直しを行います。
- 交流拠点（札幌駅、大通、創世）の整備や創成川以東のまちづくりを推進します。
- 地下鉄駅周辺などで、区役所など公共施設の重点的配置を進めるとともに、生活関連機能の導入などへの支援を行います。
- 地下鉄白石駅では、直結する区役所を中心とした街区の整備を進めます。



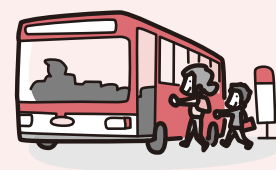
³² 【交通結節点】 複数あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所。

³³ 【都市計画マスタープラン】 これからの札幌の都市づくりの指針として、目指すべき都市の将来像と、その実現に向けた取組の方向性を全市的視点から整理した計画。

7-② 多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立

公共交通の利用促進を図ります。

- 再開発を活用したバリアフリー化の促進等を通じて、駅周辺施設などの利便性向上を図ることなどにより、公共交通の利用を促進します。
- 学校や地域などで、公共交通について学ぶ機会を設けることなどにより、「公共交通を皆で支える」という市民意識醸成を図ります。



使いやすい地域公共交通体系を確立します。

- 地域需要に応じた路線バスルートの見直し等の運行の最適化を図る取組や、多様な主体と連携した生活交通を確保する取組などを推進します。

都心や地下鉄駅周辺の移動の快適性や交通環境の向上を図ります。

- 路面電車をループ化させるとともに、3地域（都心・創成川以東・桑園）への延伸を検討します。
- 観光情報や沿線地域のイベント情報などを電停から発信するシステムの導入や、路面電車沿線の魅力づくり指針を作成し、景観まちづくりを推進します。
- 沿道ビルの地下空間への接続や、空中歩廊・民有地におけるオープンスペースの整備などを促進します。
- 再開発等による民間敷地への駐輪場の拡大や公共駐輪場の整備、駐輪場附置義務条例の見直し、自転車等放置禁止区域の拡大など、総合的な駐輪対策を推進します。
- 自転車利用に関するルール・マナーの周知・啓発に加え、自動車ドライバーに対しても自転車の車道走行に配慮する意識啓発を行うとともに、自転車走行空間の明確化に向けた取組を推進します。



7-③ 自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進

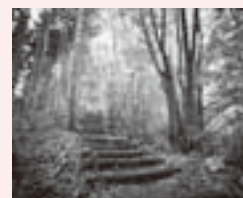
生物多様性の保全を推進します。

- 生物多様性に関する普及啓発を推進するとともに、生物生息状況を把握するための調査・モニタリングを実施します。



みどりの創出とネットワーク化を推進します。

- 再開発や緩和型土地利用計画制度の運用、緑化活動への助成などにより、民有地における緑化を促進します。
- 都心における新たなオープンスペースの創出を図ります。
- 地域特性や市民ニーズに応じた公園の機能再編・再整備を進めます。
- 子どもを見守るボランティアの養成などを通じて、既存の公園や公共空間などを活用しながら子どもが自由に遊べる場（プレーパークなど）の拡充を図ります。



森林の保全や市街化調整区域³⁴の特質を生かした土地利用を進めます。

- 森林の機能や天然・人工林などの区分に応じた森林管理手法を検討・実施します。

³⁴【市街化調整区域】無秩序な市街化を防止するために、市街化を抑制すべき区域をいう。

10年後の目指すべき姿

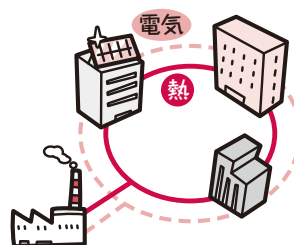
次世代エネルギーシステム³⁵が普及するとともに、新たな技術が積極的に取り入れられています。また、効率が良く安定したエネルギー供給を支える自立分散型のエネルギーネットワークの整備が効果的に展開されています。さらに、市民の環境意識も高まることで、家庭や企業などの省エネルギー・創エネルギー・蓄エネルギーが進むとともに、廃棄物の発生・排出抑制の更なる促進やごみ焼却エネルギーの効果的な活用などにより、循環型社会が実現しています。

パラダイム
シフト

実現するために変わります！

効率的で安定したエネルギーネットワークの構築

- ◆エリア単位でのエネルギーネットワーク構築の促進
- ◆都心のエネルギーマネジメントの促進



||||||| 主な取組 |||

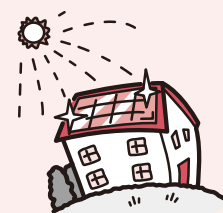
8-① 次世代エネルギーシステムの普及促進

エネルギー政策に関わる構想などを策定します。

- エネルギー政策に関わる将来的な構想と中長期的な基本計画を策定します。

先進的なシステムなどの普及を促進します。

- 省エネルギー・再生可能エネルギー機器導入支援の強化や、メガソーラー等の大規模再生可能エネルギーシステムの設置への支援などを推進します。
- 遊休地などへの太陽光発電を設置する事業者と土地所有者等のマッチングを推進します。
- 積雪寒冷に関連する技術を導入した札幌版次世代住宅³⁶や次世代自動車の研究・普及を促進します。
- コージェネレーションシステム³⁷や蓄電池・再生可能エネルギーを効率的に組み合わせるエネルギーベストミックスのシステムの設置を支援します。



広域的な再生可能エネルギーの普及を促進します。

- 札幌市近郊における再生可能エネルギー導入の支援や広域的な活用の方向性の検討を進めます。

³⁵ 【次世代エネルギーシステム】 太陽光発電などの再生可能エネルギーシステムや電気と熱を同時に作り出すシステムなど、効率的なエネルギー利用を可能とするシステム全般をいう。

³⁶ 【札幌版次世代住宅】 独自の高温熱・高気密住宅の基準として定めた要件を満たした住宅のこと。

³⁷ 【コージェネレーションシステム】 発電時に発生した排熱を、冷暖房や給湯などに利用し、総合的なエネルギー効率を高める仕組み。

8-2 自立分散型エネルギーネットワークの展開

自立分散型エネルギーネットワークの構築を促進します。

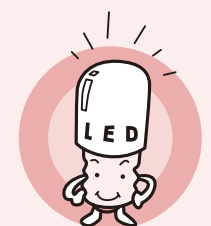
- 都心のエネルギー施策に関する将来像の検討を進めます。
- エリア単位でのエネルギー供給拠点の整備と、これらの供給拠点と建物などを結ぶネットワークの構築を促進します。
- 熱需要者であるビルのネットワークへの接続や、建築物の低炭素化などを促進する仕組みを構築します。
- 熱供給事業体³⁸の役割や将来像について、熱供給事業者などと検討・協議を進めます。
- 新さっぽろ駅周辺、真駒内駅周辺のまちづくりにおいて、既存の熱供給ネットワークを生かした効率的・安定的なエネルギー利用を検討・推進します。



8-3 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進

環境に優しいライフスタイルへの転換などを促進します。

- 市有施設へ太陽光発電や LED 照明、分散型電源などを積極的に導入します。
- 学校や青少年科学館、円山動物園における環境教育を推進するとともに、子どもたちが体験を通じて、考えながら学び、実践していくための学習機能の強化を図ります。
- 家庭におけるエネルギーの見える化の推進や、ビル単位でのエネルギー管理システムの導入を促進します。
- 省エネルギー普及促進事業を推進するとともに、市有施設における対策で得られた省エネルギーのノウハウを、民間施設へ普及させる取組を進めます。
- スマートコミュニティや街区単位でのエネルギーマネジメントなどの研究や普及に向けた支援を行います。



8-4 循環型社会の構築

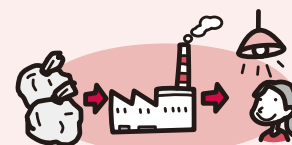
廃棄物の減量などを推進します。

- 生ごみの堆肥化を促進するとともに、ごみ減量行動のメリットの見える化などを推進します。
- 商店街など地域の事業者の連携による効率的な資源回収の支援・促進を行います。
- ごみ焼却灰の資源化や廃棄物系バイオマス資源の有効利用、使用済み小型家電に含まれる有用金属の資源化などを推進します。



高効率なエネルギー回収を推進します。

- 清掃工場において、ごみ焼却エネルギーをより効率的に回収するシステムを導入し、廃棄物発電や熱利用などを推進します。
- 近隣市町村とごみの広域処理に向けた取組を進めるなど、協力体制の充実を図ります。



³⁸ 【熱供給事業体】一定のエリアへ熱供給を行う組織。

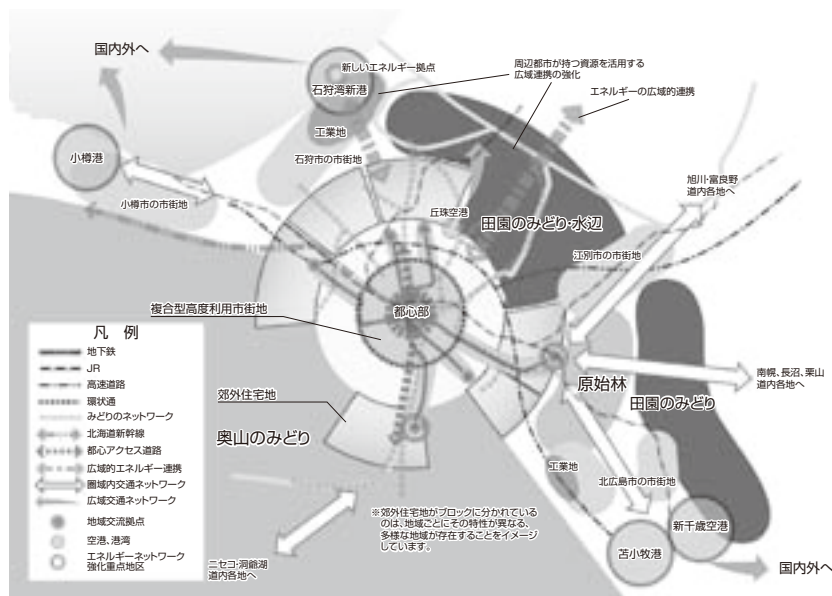
第1章に掲げる「創造戦略」の展開を支え、このビジョンで目指す都市像の実現に向けた都市整備の基本方針として、都市空間を創造するための基本的な考え方と、今後10年間に集中的に取り組む都市整備に関する施策を「都市空間創造戦略」として示します。

1 都市空間創造の基本目標

これからの都市空間を創造するための基本目標を、次の通り設定します。

持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築を進める

- 地下鉄駅の周辺などに、多様な都市機能を集約することで、効率的に都市サービスを楽しむことができるコンパクトな都市
- 良好な環境を備える郊外での暮らしを選択するなど、住まいの多様性が確保された札幌らしいライフスタイルが実現できる都市
- 公共交通を基軸としたまちづくりを推進するとともに、新たなエネルギーネットワークの構築などによる環境都市
- 都市の活力を創出するため、道内外と多様な交通ネットワークでつながる、北海道の中心都市
- 都市基盤が効率的に維持・保全され、災害に強い安全・安心な都市



目指す都市空間のコンセプト 共創都市さっぽろ ～S・L・I・M City Sapporo～

※ S・L・I・M (スリム) とは、Sustainability (持続可能性)、Livable (安心・快適で質の高い生活)、Innovation (創造性の発揮)、Managing (エネルギーやモビリティなど多様なマネジメント) の頭文字を指し、S・L・I・M City Sapporo とは、これらを包括した都市の概念

39 【札幌市住区整備基本計画】 より快適で安全な生活圏の形成と秩序ある開発誘導を図るため、札幌市が昭和48年に策定した計画で、市街化区域のうち、昭和45年の人口集中地区などを除いた約15,000haを対象としている。

40 【サイドリザーベーション】 軌道を道路の端に寄せて敷設し、歩道から直接路面電車に乗降可能となる整備方式。

2 目指す都市空間と都市空間創造戦略

1 魅力ある市街地

(1) 複合型高度利用市街地

目指す都市空間	定義 おおむね環状通の内側と地下鉄の沿線、地域交流拠点に位置付けられている JR 駅の周辺 <ul style="list-style-type: none"> ● 居住機能と生活を支える多様な機能が複合した比較的高密度で質の高い市街地を目指します。
都市空間創造戦略	質の高い複合型の市街地形成を促進します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 再開発などにより、集合型の住宅や生活利便機能などの立地を促進します。 ● 景観に関する制度の見直しや札幌らしい景観まちづくりを推進します。

(2) 郊外住宅地

目指す都市空間	定義 札幌市住区整備基本計画 ³⁹ などに基づき、低層住宅地を主として計画的に整備してきた地域 <ul style="list-style-type: none"> ● 良好な環境が維持され、誰もが安心して暮らすことができる住宅地を目指します。
都市空間創造戦略	安心して暮らせる郊外住宅地を目指します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 生活利便機能の立地への対応や地域特性に応じた取組を推進します。 ● 地域の足を確保する取組を推進します。

(3) 一般市街地

目指す都市空間	定義 複合型高度利用市街地と郊外住宅地以外の地域 <ul style="list-style-type: none"> ● 居住者の利便や就労などを支える機能が立地する住宅地と、工業地・流通業務地などから構成される市街地を目指します。
都市空間創造戦略	一般市街地の生活の維持・保全を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 住宅地や産業団地など、地域特性に応じて土地利用計画制度を適切に運用します。

2 活力があふれ世界を引きつける都心

目指す都市空間	定義 JR 札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近、中島公園、大通公園の西側付近を頂点とする、ほぼひし形に広がる区域 <ul style="list-style-type: none"> ● 高次な都市機能が集積し、魅力ある空間が整うなど、市民生活の質の向上を支えるとともに、札幌を世界にアピールすることができる魅力的な都心を目指します。 ● 地上や地下の回遊性が向上し、交通環境が改善された、人にやさしい都心を目指します。 ● 先進的かつ積極的なエネルギー施策を展開する、環境首都・札幌を象徴する都心を目指します。
都市空間創造戦略	札幌の顔にふさわしい重点的なまちづくりを推進します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 都心のにぎわい・憩いの空間の創出や再開発を進めます。 ● 創成川以東地区のまちづくりを重点的に推進します。 都心の回遊性の向上や交通環境の改善を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 路面電車のループ化（サイドリザベーション⁴⁰）や地下歩行空間の充実など、回遊性を高めます。 ● 自転車利用環境を改善する総合的な取組を推進します。 先進的・積極的なエネルギー施策の展開を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギーネットワークの強化・拡大などを促進します。

3 多様な交流を支える交流拠点

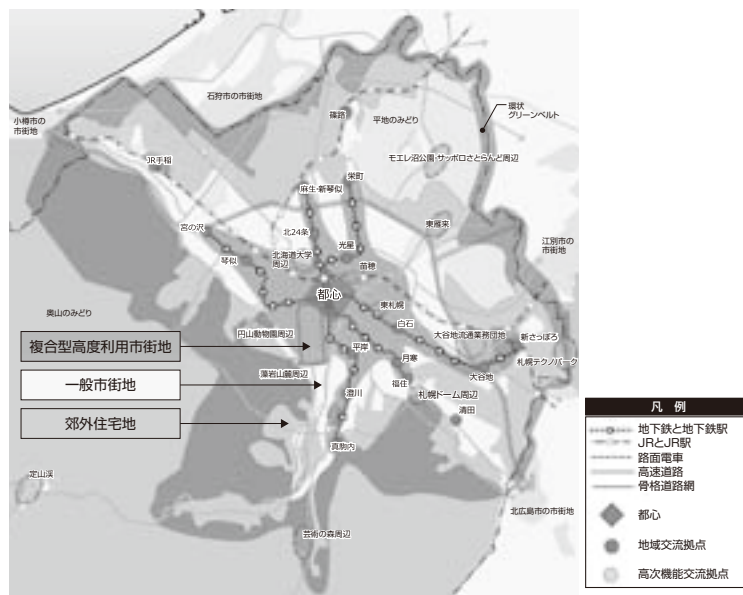
(1) 地域交流拠点

<p>目指す都市空間</p>	<p>定義 交通結節点である主要な地下鉄・JR 駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域</p> <p>● 周辺地域の住民も利用する区役所などの公共機能や、商業・業務・医療などの都市機能の集約と、居住機能との複合した市街地を目指します。特に、地下鉄始発駅などでは、後背圏や近隣の魅力資源、空港・港湾などとの連携を意識した多様な機能の向上を促進することで、ゲートウェイ⁴¹ 拠点にふさわしい市街地を目指します。</p> <p>● 駅周辺施設が空中歩廊や地下ネットワークにより駅に接続するなど、冬でも快適な歩行空間が整った市街地を目指します。</p> <p>地下鉄始発駅：新さっぽろ、宮の沢、麻生・新琴似、真駒内、栄町、福住 その他：大谷地、白石、琴似、北24条、平岸、澄川、光星、月寒、手稲、篠路、清田</p>
<p>都市空間創造戦略</p>	<p>地下鉄駅周辺などの機能向上を促進します。</p> <p>● 再開発などによる都市機能の誘導や快適な歩行空間の創出などを促進します。</p> <p>● 区役所などの拠点への配置を実施・検討します。</p>

(2) 高次機能交流拠点

<p>目指す都市空間</p>	<p>定義 産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点</p> <p>● 札幌が持つ高次な都市機能をさらに高める取組により、魅力と活力あふれる都市を目指します。円山動物園周辺、藻岩山麓周辺、北海道大学周辺、苗穂、東雁来、モエレ沼公園・サッポロさとらんど周辺、大谷地流通業務団地、東札幌、札幌テクノパーク、札幌ドーム周辺、定山溪、芸術の森周辺</p>
<p>都市空間創造戦略</p>	<p>都市機能を高める取組を推進します。</p> <p>● それぞれの拠点の性格を踏まえた都市機能の集積や高度化に向けた取組を推進します。</p>

市街地区分及び拠点の位置図



⁴¹ 【ゲートウェイ】 玄関口。

4 持続可能な都市を支えるネットワーク

(1) 交通ネットワーク

目指す
都市空間

- 公共交通を中心とした交通ネットワークをさらに活用するとともに、骨格的な道路網の強化などにより、市民生活や経済・観光などを支える円滑な交通ネットワークの構築を目指します。

都市空間
創造戦略

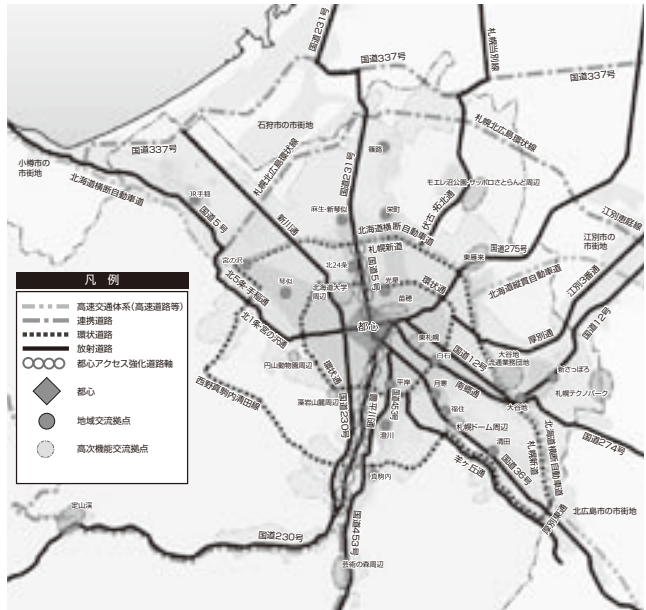
公共交通の利用促進を図ります。

- 地下鉄・JR 駅などの交通結節点の利便性を高める整備を推進します。
- 路面電車に関する整備やバス等の利便性向上に向けた取組を推進します。

骨格道路網などを強化します。

- 広域連携の強化と市内交通の円滑化を進めます。

骨格道路網図



(2) みどり豊かな空間のネットワーク

目指す
都市空間

- 骨格的なみどりの整備や市街地のみどりの充実・ネットワーク化を進め、札幌らしい、みどり豊かな都市を目指します。

都市空間
創造戦略

骨格的なみどりのネットワーク化を推進します。

- 拠点となる公園・緑地の整備を進めます。
- 都心では、オープンスペースの整備や民間施設の緑化を支援します。

市街地のみどりの充実・ネットワーク化を推進します。

- 地域特性に応じた公園の機能再編・再整備を進めます。
- 既成市街地への公園整備を進めます。

みどりの将来像図



(3) エネルギーネットワーク

目指す
都市空間

- 自立分散型のエネルギー供給体制と、これをつなぐネットワークが形成された都市を目指します。
- 市域外も含めた広域的な再生可能エネルギーを活用する、エネルギーの利用効率と安定性が高い都市を目指します。

都市空間
創造戦略

都市開発等に合わせたエネルギーネットワークの構築などを促進します。

- 再開発や清掃工場の建て替えなどと連動して、エネルギーネットワークの構築を促進します。

創エネルギーを推進します。

- ごみ埋め立て地などの未利用地を活用した再生可能エネルギーの導入を支援します。

⁴² 【オープンスペース・コリドー】ここでは、市街地を貫通し、都市にうるおいをもたらすオープンスペースの軸となることを目指すものとしている。

5 都市基盤の維持・保全と防災力の強化

目指す
都市空間

- 都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全や機能の見直し・複合化、耐震化などが計画的に行われている、安全・安心な市民生活が実現する都市を目指します。

都市空間
創造戦略

都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全などを推進します。

- 都市基盤の維持・保全を進めます。
- 都市基盤の適切な再配置と活用を図ります。

災害に強い都市を構築します。

- 建築物の耐震化などを促進します。
- 災害に強い都市基盤の整備を推進します。

今後 10 年間の想定される主な取組



凡例

●●●○●●●	地下鉄と地下鉄駅	◆	都心	— <想定される主な取組> —	
—○—	JRとJR駅	●	地域交流拠点	■	北海道新幹線(予定)
- - -	路面電車	○	高次機能交流拠点	▨	都心アクセス強化道路軸(予定)
—	高速道路	○		△	交通ネットワークの強化
●●●●	みどりの軸(オープンスペース・コリドー)			☆	拠点の強化
				☆	拠点の強化と共に市街地の再構築を進める
				○	みどり空間ネットワークの創出

はじめに

第1章

第1節

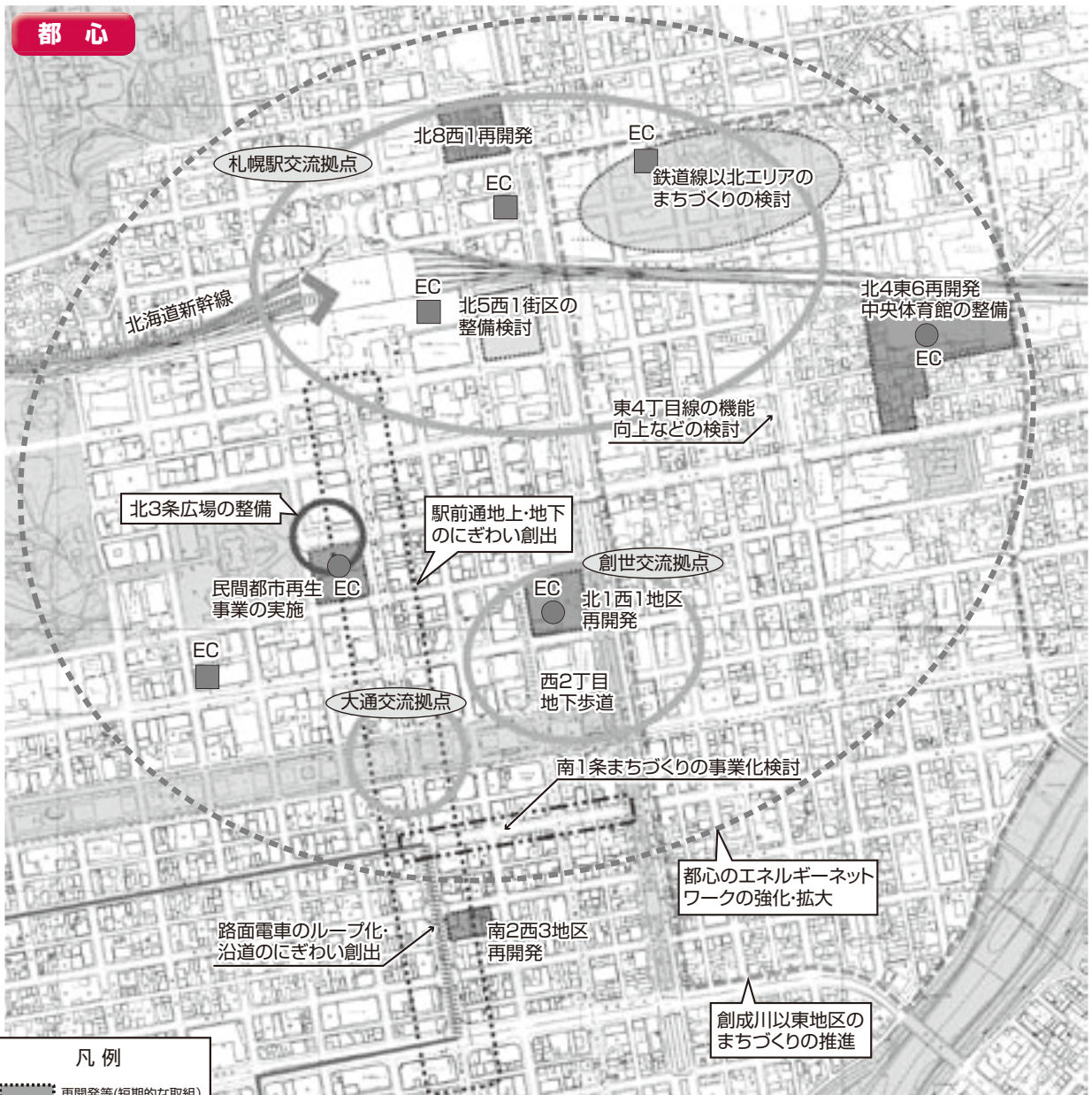
第2節

第3節

第2章

第3章

成果指標



凡例	
	再開発等(短期的な取組)
	まちづくり・整備の検討
	駅前通地上・地下のにぎわい創出
	南1条まちづくりの事業化検討
	創成川以東地区のまちづくりエリア
	骨格軸・展開軸
	交流拠点
	都心のエネルギーネットワークエリア
	地下歩道の整備
	路面電車のループ化
	路面電車(既設)
	北海道新幹線(予定)
	拠点的なみどり
EC(エネルギーセンター)	
	新設予定
	既存

第3章 戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点

これからの財政状況を見てみると、生産年齢人口の減少などの影響により、市税収入などの財源の落ち込みが懸念される一方で、高齢化の急速な進行などにより扶助費等の社会保障関係費や公債費の増加傾向が今後も続くことが見込まれるなど、総じて厳しい局面にあるといえます。

そのような中にあっても、第1章「創造戦略」と第2章「戦略を支える都市空間」に掲げる札幌の魅力を磨き高める取組を効果的に進めていくためには、パラダイムの転換による新たな視点と価値観を踏まえた行財政運営に取り組み、限りある経営資源を有効に活用していく必要があります。

そこで、この章においては、今後の行財政運営上、特に踏まえるべき重要な視点を示します。

行財政運営の視点

1 市民自治の更なる深化 ～市民が主役のまちづくり～

- より詳細でわかりやすい情報提供と徹底した市民議論等を通じて、市民が主役のまちづくりを進めます。
- 新しい公共の成長を支援し、地域で生じている様々な課題にきめ細やかに対応していきます。

2 変化に対応できる組織

- 区役所やまちづくりセンターなどのコーディネート機能を強化します。また、組織横断的なプロジェクトチームを設置するなど、柔軟な組織運営体制の構築を進めていきます。
- 各種研修やOJTを通じて、様々な行政課題の変化に的確に対応できる職員の育成を行います。

3 持続可能な財政運営

- ベンチマークの設定による財政規律の維持など、計画的な財政運営を行います。
- 柔軟で機動的な「通年型アジリティマネジメント⁴³」による財政運営を推進します。
- 地域経済の活性化に資する施策、事業展開により、強固な産業基盤を確立するとともに、事務事業の不断の見直しを行っていきます。

4 サービス水準や受益と負担の在り方

- 行政サービスの水準や、受益と負担の在り方については、税により賄う必要性や経営資源の配分における世代間のバランスなどを考慮し、市民意見等も踏まえながら、検討していきます。

5 市有財産の保全と活用

- 市有建築物の更新に当たっては、複合的利用や機能転換などを進めることで、総量を抑制しつつ市民の利便性を高める工夫をしていきます。
- 市有財産や施設の更なる質的な向上を図り、最小の経費で最大の効果を発揮していきます。

6 市民・企業などとの連携の強化

- 市民・企業・行政相互の連携協働の関係を一層深化させる取組を進めていきます。
- 都市基盤の整備等については、公共施設の整備だけにとどまらず、規制緩和や補助制度などを通じて、民間企業の投資の動きを活発化する支援を行っていきます。

7 北海道と道内市町村との連携体制の確立

- 北海道と札幌市の役割分担を明確にするとともに、様々な分野において連携を深め、北海道や道内市町村との互恵的（Win-Win）な関係を築いていきます。

⁴³【通年型アジリティマネジメント】ここでは、年度中の様々な状況変化に応じて、年間を通じて、迅速で機敏な制度運用・経営管理を積極的に行うことをいう。

成果指標一覧

NO	指 標	現状値	目標値
第1節 暮らし・コミュニティ			
創造戦略1 地域福祉力創造戦略			
1-① 市民の孤立を防ぐ支え合いの環境づくり			
1	孤立死について心配していない市民の割合	43.1% (H22)	55% (H34)
2	福祉推進委員会を組織している単位町内会の割合	53.6% (H23)	59% (H34)
1-② 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり			
3	生活や健康福祉に関して困っていることや相談したいことの相談先がない高齢者の割合	27.0% (H22)	20% (H34)
4	障がいのある人にとって地域で暮らしやすいまちであると思う人の割合	28.1% (H24)	60% (H34)
1-③ 災害に備えた地域防災体制づくり			
5	災害に対する備えを行っている家庭の割合	72.8% (H24)	80% (H34)
6	災害に備えた活動を行っている自主防災組織の割合	84.6% (H24)	95% (H34)
創造戦略2 共生社会創造戦略			
2-① 地域で共生する環境づくり			
7	障がいのある人にとって地域で暮らしやすいまちであると思う人の割合【再掲 創造戦略1 No.4】	28.1% (H24)	60% (H34)
8	高齢者の活動度（社会貢献活動を行う高齢者の割合）	57.8% (H24)	70% (H34)
9	就労支援施設などの福祉施設から一般就労への移行者数	231人 (H23)	300人 (H34)
2-② 子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり			
10	子どもを生き育てやすい環境だと思える市民の割合	55.2% (H24)	80% (H34)
11	保育所待機児童数	757人 (H25)	0人 (H27~34)
2-③ 歩いて暮らせるまちづくり			
12	住んでいる地域の住環境に満足している人の割合	80.1% (H24)	95% (H34)
13	公共交通の利用者数	108万人/日 (H24)	110万人/日 (H34)
創造戦略3 地域マネジメント創造戦略			
3-① 地域活動を活性化する環境づくり			
14	町内会加入率	71.1% (H24)	75% (H34)
15	市内に主たる事務所を置くNPO認証法人数	857団体 (H24)	1,300団体 (H34)
3-② 地域マネジメントの推進			
16	「市民まちづくり活動」に参加したことのある市民の割合	41.8% (H24)	85% (H34)
17	町内会加入率【再掲 創造戦略3 No.14】	71.1% (H24)	75% (H34)
3-③ 雪と共存した暮らしの推進			
18	冬の暮らしに関する地域内協働の取組に参加した団体数	1,096団体 (H24)	1,400団体 (H34)
19	ウインタースポーツをする市民の割合	11.7% (H24)	25% (H34)
第2節 産業・活力			
創造戦略4 札幌型産業創造戦略			
4-① 食の魅力を生かした産業の高度化			
20	食料品製造業の製造品出荷額等	2,053億円 (H22)	2,400億円 (H34)
21	食料品製造業の粗付加価値額	782億円 (H22)	940億円 (H34)
4-② 魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進			
22	観光地としての総合満足度（「満足」と回答した人の割合）	27.0% (H24)	40% (H34)
23	札幌市内での総観光消費額	3,743億円 (H24)	4,700億円 (H34)
24	年間来客数	1,304万人 (H24)	1,500万人 (H34)
4-③ エネルギー転換に対応した環境産業の創造			
25	新製品・新技術の開発や新分野進出に取り組むと答える企業の割合	58.1% (H24)	75% (H34)
26	大学発ベンチャー企業数（環境・エネルギー）	21社 (H23)	30社 (H34)

NO	指 標	現状値	目標値
4-④ 超高齢社会に対応した健康・福祉産業の創造			
27	新製品・新技術の開発や新分野進出に取り組むと答える企業の割合【再掲 創造戦略4 No.25】	58.1% (H24)	75% (H34)
28	バイオ産業の売上高	313 億円 (H23)	730 億円 (H34)
創造戦略5 都市ブランド創造戦略			
5-① 世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開			
29	グローバル化への取組を行っている企業の割合	8.7% (H24)	45% (H34)
30	国際会議の開催件数	83 件 (H23)	120 件 (H34)
5-② 創造性を生かしたイノベーションの誘発			
31	IT・コンテンツを活用して高付加価値をつけようと思っている企業の割合	13.2% (H24)	20% (H34)
32	クリエイティブ産業の従事者数	37,390 人 (H21)	39,000 人 (H34)
5-③ 広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実			
33	札幌を含めた広域経済圏の輸出額	1,838 億円 (H23)	2,000 億円 (H34)
34	誘致施策を活用した立地企業数	累計 80 社 (H24)	累計 175 社 (H34)
5-④ シティプロモート戦略の積極展開			
35	観光地としての総合満足度（「満足」と回答した人の割合）【再掲 創造戦略4 No.22】	27.0% (H24)	40% (H34)
36	年間来客数【再掲 創造戦略4 No.24】	1,304 万人 (H24)	1,500 万人 (H34)
創造戦略6 産業人材創造戦略			
6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用			
37	子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合	63.9% (H24)	70% (H34)
38	海外からの留学生数	1,813 人 (H23)	3,400 人 (H34)
6-② 誰もが活躍できる社会の実現			
39	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	47.4% (H24)	70% (H34)
40	女性の有業率	46.0% (H19)	60% (H34)
第3節 低炭素社会・エネルギー転換			
創造戦略7 低炭素都市創造戦略			
7-① 持続可能な集約型の都市への再構築			
41	都心の区域内実容積率 ⁴⁴	219% (H23)	250% (H34)
42	地域交流拠点の区域内実容積率	93% (H23)	105% (H34)
7-② 多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立			
43	公共交通に対する満足度	74.7% (H24)	90% (H34)
44	公共交通の利用者数【再掲 創造戦略2 No.13】	108 万人/日 (H24)	110 万人/日 (H34)
7-③ 自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進			
45	生物多様性の理解度	33.1% (H23)	70% (H34)
46	保全されているみどりの面積	21,422ha (H24)	21,800ha (H34)
創造戦略8 次世代型エネルギー創造戦略			
8-① 次世代エネルギーシステムの普及促進			
47	太陽光による発電量	0.1 億 kWh (H23)	4.4 億 kWh (H34)
48	分散型電源システムによる発電量	2.0 億 kWh (H23)	4.0 億 kWh (H34)
8-② 自立分散型エネルギーネットワークの展開			
49	都心におけるネットワークへの接続建物数	106 棟 (H24)	124 棟 (H34)
8-③ 市民・企業による環境負荷低減の取組の推進			
50	環境配慮活動を実践している人の割合	61% (H24)	90% (H34)
51	電力需要量 ⁴⁵	94 億 kWh (H24)	86 億 kWh (H34)
8-④ 循環型社会の構築			
52	生ごみの減量・リサイクル（水切り減量、堆肥化など）に取り組んでいる世帯の割合	87.5% (H24)	95% (H34)
53	札幌市が処理するごみのリサイクル率	26.7% (H24)	30% (H34)

⁴⁴【区域内実容積率】ここでは、対象区域内の建物の延べ床面積の合計に対する対象区域の面積の割合をいう。

⁴⁵【電力需要量】ここでは、市民・企業などが北海道電力株式会社から供給を受ける電力量をいう。

表紙デザイン

札幌市立大学 デザイン学部
メディアデザインコース4年
澤出有里さんの作品です



全体的なデザインは、札幌の美しい風景の一つである市電と、みんなが共に協力してまちづくりを進めていく姿をイメージしました。

全体に散りばめられた模様は、光が広がる様子を表現しており、北海道の明るい未来を創造し、それが広がりを見せていくイメージを示しています。

札幌・北海道の様々な魅力を、一人一人の創造性によって磨き上げながら、新たな価値を生み出してほしいという思いを込めています。

札幌市まちづくり戦略ビジョン <戦略編> (平成25~34年度) 【概要版】

平成25年(2013年)10月発行

企画・編集：札幌市市長政策室政策企画部企画課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

電話 011-211-2192 FAX011-218-5109

ホームページ：<http://www.city.sapporo.jp/kikaku/vision/>



さっぽろ市
01-A02-13-1317
25-1-69



SAPPORO 2013-2022

SAPP_RO